

リンダ フィッツジェラルド

アイルランド出身の元カトリック信者 (4/4)

:

明:ようやくイスラ ムを受け入れたリンダは、それに至るまでの苦 と内的葛藤について ります。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: リンダ フィッツジェラルド

日9 May 2014

集日 18 May 2014

## 改宗

2 、私はダアワ センタ を れていました。私は酷く怯えていて、自分が何か ったことを言  
ってしまわないか怖れていました。友人のハ リドと彼の妻が私を れてきたのです。と  
ても感情的になった一日でした。最 には、私たち皆が目に を浮かべていました。私は  
途の の中でずっと泣き けました。

依然として、物事は思ったとおりにには行きませんでした。ライフスタイルの 更に伴い  
、私は完全なテレビ中毒者になってしまっていました。私の人生は礼 、そして夜のテ  
レビを中心に回っていたのです。私はそのことに 足していませんでしたが、それを え  
るには怠けきっていました。イスラ ムの本を もうともしましたが、何も受けつけなく  
なっていました。私に する噂 が病院内を け巡っており、それが私自身に っ  
てきていました。私は自分の人生が他人の好奇心の 象となること、また 口や噂 の矛先に  
なることが大嫌いだったため、そのことは私を非常に させました。ある 、 から 宅した  
私は、もうそれ以上耐えることが出来ないと感じていました。 宅したらテレビを な  
ら夜を ごし、 とも会わず もしないことはとても嫌でしたし、 末は のようでした。 末中  
とも会わないこともありました。私は 失感と孤独感で一杯でした。イシャ 礼 の になり

ましたが、何もする 起きませんでした。そんな 持ちになったのは初めてでしたし、そのことにとても困惑しました。私は2 通して泣き けました。

翌日、私の 目は れ上がっており、その日もたびたび泣いていました。ハ リドは何があつたのか何度も ねましたが、私はとても じ入っていたため最初は何も言い出すことが出来ませんでした。ただ、礼 は行わなければならないことを知っていたのでそれは欠かしませんでした。その 、彼と が出来るようになると、彼は には彼自身もそう感じていること、そしてそのことについて じ入ったり、惨めに感じたりすることはないと慰めてくれました。彼によると、私に必要なのはライフスタイルを えることで、テニスやショッピングをしたり、 をしたりすれば良いということでした。私には すことの出来る相手、そして孤独感を感じないことが先 だったので、彼とはまだ口 していません。

その夜、 宅した私は 失感に苛まれ、もうこれ以上この状 を けることは 理だと感じていました。礼 、 づいて必死にこう祈りました。「神さま、お いです。私にあなたを 失わせないでください。お いだから私にあなたを 失わせないでください。」私は起き上がって腰 け、クルア ン 半の短い章句を き、アツ=タカ スル章を つけ、 み始めました。それを んだ 、私は未だに自分が 着を感じているテレビを始め、人々が自分のことをどう捉えているか にしたりすることなどをすべて止めてしまわなければならないと感じました。そうすることを学ばなければならないのです。すると自分の み事がすべて、あたたかも背中からふわりと浮かび上がって れていくような感 がしました。

翌朝のファジュル礼 で祈りを えて祈 をしていると、私は 手を まで上げてそうしようという 持ちになりました。人々がそうしているのを たことはありますが、それが何のためなのかは理解していませんでした。私は 手を上げて神に祈り、自分が 去の を てることが出来るよう、そして努力してより良い人物になれるよう祈りました。それから 手を の位置まで上げると、ひりひりするような感 と、ずっと感じたことのなかったような安心感を感じました。少しでも くとその感 がどこかに行ってしまうことを恐れましたが、それはどこかに行ったりはしませんでした。

その日、 でコンピュ タ部 のアンワ ルが私を ねてきました。私自身は彼とは一度も会ったことはありませんでしたが、彼は私のことを耳にしていました。彼は私にラ ジヒ モスクで金曜日に英 のレクチャ があることを教えてくれました。私は金曜日、そこに行くことに めました。その 、私はテレビを全く点けず、テニスをし、信 の置ける 手にモスクへ れていってくれるよう みました。

金曜の朝、私は非常に し、最 の瞬 になって行きたくなくなっていました。もしもえたモスクに行ってしまったらどうしようだとか、不 切なことをしてしまったらどうしようという思いが をもたげていました。扉を出る直前、私は神に祈ってお きと万事に行くよう みました。果的にすべては に行きました。私はサウジに 在するスリランカ出身のサミ ル一家 私の新しい家族 と出会うことができ、自宅に私を招待してくれた彼らは、まるで私が家族の一 かのようふるまってくれました。神が彼らを祝福し、良き をお与えになりますように。彼らとの出会いをお授けになった神に、私は 日感 しています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/117>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。